

VII. 懇談会等【共益事業】

(1) 会員懇談会

会員懇談会は、全会員を対象に、大臣や閣僚・国内外の各界有識者等を来賓として招き、時宜にかなったテーマで講演会と懇談会を行っている。本年度は3月31日に開催し、吉野彰 旭化成（株）名誉フェローを招き、「カーボンニュートラルの実現に向けて」と題して講演をいただいた。なお、吉野氏を招いての会員懇談会は、2020年度において、1月の同友クラブとの合同による新年会員懇談会として実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期されたものである。また、例年は講演の後に立食懇談会を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、講演会のみ開催した。

(2) 会員セミナー

会員セミナー（大八木成男委員長・程近智委員長）は全会員を対象として、会員の知識の向上・知恵の醸成に貢献し、会員の資質向上を図ることにより、本会活動の活性化に寄与することを目的として活動している。本年度は、WEB 会議システムを用いた形式で7回、対面・WEB 併用形式で3回の計10回の会員セミナーを開催した。また、5月に予定していた、「世界経済の回復（インフレ）は続くのか」をテーマとしたセミナーは、新型コロナウイルス感染症対策のために、11月に延期して開催した。

コロナ禍でWEB形式での開催が多くなったが、WEBの利点を生かし、在独ジャーナリストより「日本は、ドイツ・欧州のコロナ禍との戦いから何を学ぶか」、広島県教育委員会教育長より「長年続いてきた日本の受動的・同調的な学びを主体的・対話的で深い学びに変えるために私たちができること」といったテーマで講演いただき、海外や地方在住の講師に現地からご参加いただくことができ、企画の幅を広げた。

これに加え、7月には「コロナ後の日本経済と世界の課題」、9月には「世界経済情勢と日本」といったテーマでもWEB形式で専門家よりご講演をいただいた。

10月には運営委員会を開催し、本セミナーの企画・運営について協議した。その結果、11月以降は適切な感染対策を講じたうえで、対面・WEB併用で可能な限り実施することとした。テーマとしては、環境、宇宙、教育、健康等の会員の関心が高い分野を優先的に取り上げることとし、各分野の専門家からご講演をいただいた。

各回終了後には、講演録(セミナー通報)を作成し、会員専用WEBサイトで配信した。

また例年通り、本会の親睦団体である同友クラブメンバーと各地経済同友会会員に

も案内した。2020年度より取り入れたWEB配信が好評であり、秋田、福島、栃木、群馬、埼玉、新潟、静岡、福井、神戸、岡山、山口、大分、鹿児島、沖縄の各地経済同友会会員から多数の参加を得、参加者の幅が広がり、各地との連携にもつながった。

(3) 産業懇談会

産業懇談会（江幡真史代表世話人・湯川智子代表世話人）は、会員の相互交流、情報交換を目的とし、14グループがそれぞれの世話人および運営委員を中心として、自主運営を行っている。グループ毎に昼食会形式で開催し、メンバーからの話題提供や、さまざまな分野で活躍される外部講師による講演と意見交換を行うことが本来の形である。

本年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、例会は15回開催中止となった一方で、WEB会議システムを用いた開催方式を取り入れるグループが増えた。その結果、全114回の例会のうち、対面・WEB併用は71回、WEBのみが32回、対面のみが11回の開催となった。

また、毎年恒例の「14グループ合同懇談会」（暑気払い）も中止となったが、これに代えて産業懇談会14グループメンバー全員を対象としたオンライン海外視察企画として、ケニア・ナイロビ公園、オーストリア・ウィーン、スペイン・マドリッド・プラド美術館の視察を実施した結果、全123名が参加し、産業懇談会の新たな取り組みとして参加者からは高い評価を得た。加えて、本会負担によるグループ個別での懇談会を8グループで、WEB見学会を1グループで行った。

3月に2年ぶりに開催した「14グループ世話人会」には、世話人26名が出席し、産業懇談会の費用構造について認識を共有するとともに、コロナ禍でWEBを活用した新しい産業懇談会の運営のあり方について意見交換を行い、グループの枠を越えて相互理解を深めた。

年度末の登録者総数は885名（2020年度末870名：15名増加）となり、過去10年間で最多となった。

各グループの活動状況は以下の通りである。

〔第1火曜グループ〕

新型コロナウイルス感染症防止策を徹底し、対面のみでの例会を7回、運営委員会を1回実施した。例会では、メンバーの所属企業の業界の動向や取り組んでいる事業の紹介等、興味深い視点での話題提供、また外部講師は、元NHKアナウンサーであり、プレゼンコンサルタントである講師から「リーダーに求められる、話して伝える力の実践法」等、幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。運営委員会は2月に開催し、2022年度の運営体制や活動方針について討議・決定した。

〔第1水曜グループ〕

例会を7回、海外オンライン見学会を1回、運営委員会を2回開催した。新型コロナウイルス感染症防止の観点から、4月から10月までの例会はWEBのみ、11月以降の例会では対面とWEB併用にて開催したが、食事提供は見合わせた。例会では、外部講師からはオリンピック・パラリンピックの組織運営、科学技術の産学連携、日本酒文化等の幅広いテーマについて、メンバーからは所属企業・業界の取り組みや今後の戦略等について、話題提供・講演と意見交換を行った。運営委員会では2021年度下半期の運営方針と2022年度の活動方針・企画について討議・決定した。

〔第1木曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回、懇談会（1木シンポジウム）を1回開催した。新型コロナウイルス感染症防止の観点から、5月と6月の例会は完全WEB形式で実施し、それ以外の例会は対面とWEBを併用して開催した。例会では、メンバーからの話題提供を基本とし、メンバー自身の事業の紹介や業界の動向と課題等について講演を行った。運営委員会は2月に開催し、来年度の運営方針や話題提供候補者、2022年度の世話人・運営委員体制について討議・決定した。

〔第2火曜グループ〕

対面とWEBの併用による例会を4回、WEBのみによる例会を3回、見学会を1回、運営委員会を1回開催した。例会では、メンバーの所属企業・業界の現状と展望について、外部講師からは、デジタルヘルスケアの現状や宇宙飛行士の活動、2022年の経済展望等、幅広いテーマで話題提供と意見交換を行った。このほか、10月には新しいオフィスのあり方を提案するコクヨ(株)のショールームの見学会を開催する等、多彩な企画にて親睦を深めた。運営委員会は1月に開催し、2022年度の運営体制と企画等について討議・決定した。なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、5月例会は中止、3月に予定していた夕食懇談会は開催を見送った。

〔第2水曜グループ〕

対面とWEBの併用による例会を5回、WEBのみによる例会を3回、運営委員会を3回、懇談会を1回開催した。5月例会については、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。例会では、メンバーから所属企業・業界の現状と展望について、身体性の変化やポストコロナ世界の展望への思考等、幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。見学会および第2金曜、第3水曜、第4火曜との新年合同懇談会は、新型コロナウイルス感染状況に鑑み中止とした。2月の運営委員会で、2022年度の世話人・運営委員体制、企画等について討議・決定した。

〔第2木曜グループ〕

対面とWEB併用による例会を8回、WEBのみによる例会を1回、運営委員会を1回、懇談会を1回開催した。5月例会については、新型コロナウイルス感染症対策のため、9月に開催を延期することとした。例会では、メンバーからは、所属企業・業界のワークスタイルイノベーションやSDGsの取り組みについて、外部講師からは、新型コロナ全論文解説、コロナ禍とクルーズ業界、伝統音楽と尺八の生演奏等の多岐にわたるトピックについて、講演と意見交換を行った。運営委員会は3月に開催し、2022年度の運営体制、方針等について討議・決定した。

〔第2金曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を10回、運営委員会を2回開催した。例会では、メンバー自身の事業の紹介や取り組み、外部講師からは、新型コロナウイルス感染症の最新の知見、未曾有の災害に対応するAI防災の最前線、デジタルインフラの整備等をテーマに話題提供・講演と意見交換を行った。新型コロナウイルス感染症対策のため、見学会や新年懇談会は開催しなかった。運営委員会は2月に開催し、2022年度の運営体制と講師候補を含む運営方針等について討議・決定した。WEB併用に伴うメンバーとの交流の希薄化等といった懸念点の打開策として、2022年度よりフリートークを実施することとした。

〔第3火曜グループ〕

例会は、対面のみを3回、対面とWEBの併用を2回、WEBのみを4回、新年懇談会を1回、見学会（防衛省）を1回、運営委員会を1回開催した。例会では、外部講師の招聘を基本に、自然科学、デジタル、パラスポーツ、芸術（ヴァイオリン生演奏）、企業経営、あるいはメンバー自身の所属する企業・業界の動向等、幅広いテーマで講演と意見交換を行った。3月に開催した運営委員会では、2022年度の運営方針および運営体制、ならびに例会の講演テーマと見学会候補先の選定について討議した。なお、例会は対面の価値を重んじて、対面開催を基本としつつ、緊急事態宣言の発令下やまん延等防止措置下においてはWEBも用いることとした。

〔第3水曜グループ〕

例会は、WEBのみを4回、対面とWEBの併用を5回、運営委員会を2回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の状況や動向等について、外部講師からは、医療、水資源、宇宙、将来のコンピューター等幅広いテーマで話題提供・講演と意見交換を行った。なお、1月には夕食懇親会を兼ねた夜間例会を企画したが、オミクロン株の感染状況に鑑み中止とした。見学会も本年度は開催を見送った。9月と2月に

開催した運営委員会では、上期・下期の活動方針、グループ活性化の施策等について討議・決定した。

〔第3木曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を7回、見学会を1回、運営委員会を1回、懇談会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業の取り組みや企業理念について、外部講師からはポストコロナ時代の医療や脱炭素化に向けた世界の動向等、多岐にわたる話題提供・講演と意見交換を行った。見学会では東京都写真美術館を訪問し、多様な写真や映像表現を用いた3つの展覧会を鑑賞した。また交流促進のため10月には懇談会を開催した。運営委員会は3月に開催し、2022年度の運営体制、講師候補、見学会先について討議・決定した。

〔第4火曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を7回、運営委員会を1回開催した。なお、5月の例会および見学会については、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて、また、外部講師からは、日本の貧困問題や禅の修行からみた人間の可能性、コロナ禍下の赤十字活動、明治工芸の魅力、ウクライナ危機等、幅広いテーマで講演があり、意見交換を行った。運営委員会は2月に開催し、一年間の活動の総括とともに、2022年度の活動計画等について討議・決定した。

〔第4水曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を7回、WEBのみでの例会を3回、見学会を1回、運営委員会を1回、懇談会を1回それぞれ開催した。5月例会は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。本年度は例会での話題提供者をメンバーに限って実施し、所属企業・業界の現状や取り組み、今後の課題にかかる講演の後、意見交換を行った。また、見学会では寺田倉庫(株)を訪問した。ワインセラー、美術館、水上ホテル等の各施設を見学したのち、T.Y. HARBORにて開催した懇談会でメンバー間の交流を深めた。

2月に開催した運営委員会では、本年度の活動の振り返りと合わせ、2022年度運営体制およびグループ運営について議論し、2022年度は外部講師の招への再開と話題提供前の2分間スピーチの実施を決定した。

〔第4木曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を7回、WEBのみによる例会を1回、運営委員会を2回、懇談会を1回、それぞれ開催した。新型コロナウイルス感染症対策のため例会を2回中止した。また、見学会の開催は見送った。文化・産業・先端技術をテーマに著名な

外部講師を招き、「折紙研究の最先端」と題し、折紙と文化、数学、アート、工学をテーマとした講演と意見交換を行った。加えて、新メンバーを中心に話題提供をいただき、定着を図った。運営委員会は4月と3月に行い、運営委員体制や活動方針等について討議・決定した。

〔第4金曜グループ〕

対面とWEBを交えた例会を7回、見学会を1回、運営委員会を1回、懇談会を1回開催した。例会では、メンバー自身の所属企業での取り組みや専門分野に関する話題提供を、外部講師からは、スポーツ、医療、文化、経済展望等、幅広いテーマで講演と意見交換を行った。見学会では、(株)NTTドコモのショールームを訪れ、5Gを用いた映像伝送や、5Gを想定したVRのコンテンツおよびそれらの技術を見学した。また、メンバー間の交流を深めるため、恒例の忘年懇談会を実施した。運営委員会は2月に開催し、2022年度の運営委員体制や活動方針等について討議・決定した。

(4) 経済懇談会

経済懇談会(清水新一郎世話人・宮地伸二世話人)は、1997年の発足以来、企業の第一線の経営者(副社長・専務・常務・執行役クラス)を構成メンバーとし、企業経営における実践的な課題について意見交換を行う自主運営の懇談会である。本年度は、4名の新メンバーを含む20名が、10月から3月までの6か月間に、定例会合(原則として毎月2回)を、WEBも活用しながら11回、施設見学会を1回開催した。

第1回会合において、本年度の活動テーマを「変わりゆく社会に対応するために～様々な視座から」と決定した。本年度はこれまでのケーススタディ発表中心の方式を見直し、当日担当メンバーの視点から問題提起を行い、それに基づいたフリーディスカッションをファシリテートすることで、新たな視点を供給しあい、議論を深めた。

外部有識者からのヒアリングでは、越塚登 東京大学大学院情報学環・学際情報学府・教授より、「今後のデジタル社会のあり方と課題」の演題の下、現在のデジタル分野の技術・産業・社会の動向を踏まえた上で、わが国および世界のデジタル人材の現状と課題、今後の展望についてご講演いただき、活発な意見交換を行った。また、田中明彦 政策研究大学院大学学長より「世界システムの構造変容」と題して、ロシアによるウクライナ侵攻について国際政治理論に基づいた現状分析、今後の展望について見解を伺った後、活発な意見交換を行った。

施設見学会では、3月に日本航空(株)の工場(格納庫)と7月に全面リニューアルが行われたSKY MUSEUMのあるJALメンテナンスセンターを訪問した。

年間を通じ、視点や意見、知見の交換が活発に行われた。

(5) 創発の会

創発の会（吉松徹郎座長・安田結子座長）は、原則として本会入会后2年以内の会員を対象とし、委員会活動への本格的参画のためのファースト・ステップとなる場を提供している。

本会の理念、先達経営者の気概を幹部会員から新入会員へ伝承するとともに、忌憚のない意見交換を通じて幹部会員を触発し、本会活動全体の活性化につなげることを目的として、1999年1月の発足以来、講演会と懇談会（カクテルパーティ）の二部構成で開催することを恒例としていた。

しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、従来の形式で開催することは難しく、座長協議の結果、2021年3月に修了年限を迎えた71名のメンバーについては登録期間を1年延長し、2022年3月の修了とすることを決定した。

本年度は10月に正副座長会議を開催し、運営方針を検討した結果、感染拡大状況を見極めながら、創発の会の趣旨を十分に踏まえたうえで都度、開催方法や形式を慎重に検討していくことを確認した。

第1回会合は10月に開催し、新規登録メンバーと継続メンバーが相互に自己紹介を行うことにより交流を深めた。第2回目以降の会合では玉塚元一 幹事より「企業変革の要諦―さまざまな挑戦からの学びの共有」、間下直晃 副代表幹事より「進化する経済同友会。ダイバーシティのその先へ」、伊達美和子 幹事より「不確実な未来を切り拓く経営を目指して～森トラストグループの歩み～」、新浪剛史 副代表幹事より「経営者として・『DO TANK』の一員として」と題して講演をいただいた。

メンバー同士の交流の場として毎回の会合後に開催してきた懇談会（カクテルパーティ）については、感染防止の観点により、一年を通して開催を見送った。3月には、2020年度ならびに本年度修了者の合同修了式を開催した。

(6) リーダーシップ・プログラム

リーダーシップ・プログラム（櫻田謙悟委員長）は、社会のリーダーとしても活躍し得る次世代のトップ経営者育成を目的として、会員所属企業の若手役員（主に取締役、執行役員クラスで本会未入会者）を対象に、2003年度から実施している共益事業活動である。

著名な経営者との対話や参加者間の本音の議論を通して、あるべき経営者像や、政治・経済・社会のあり方、さらにはリーダーシップの本質について深く考え、社業を越えた幅広い視野を持つことを目指すとともに、参加者同士の交流によりネットワークを形成することも、重要な目的の一つである。

2019年度までに合計378名が本プログラムを卒業し、このうち112名が本会へ入会

している。本年度で 17 期目を迎える予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、2020 年度に引き続き、本年度もプログラムの実施を見合わせた。

(7) ジュニア・リーダーシップ・プログラム

ジュニア・リーダーシップ・プログラム（立石文雄委員長）は、企業的意思決定ボードのダイバーシティ実現に向けた次期上級幹部の育成を目的としており、会員所属企業の部長クラスを対象に 2012 年度から実施している共益事業活動である。

各回の会合には、本会の会員を中心とした企業経営者を講師に招き、組織マネジメントや人材育成、ダイバーシティ実現に向けた改革への取り組み等について講演を聞く。質疑応答では、参加者が直面している実際の課題について、講師から具体的なアドバイスを受け、問題解決に向けて考え抜く力を養うとともに、企業の活性化を牽引するリーダーシップとは何かを学ぶことを目指している。また、活動を通じて参加者同士の交流を図り、企業の垣根を越えたネットワークづくりを行っている。

2019 年度までに、合計 189 名が本プログラムを卒業し、このうち 6 名が本会へ入会している。本年度で 9 期目を迎える予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、2020 年度に引き続き、本年度もプログラムの実施を見合わせた。